

学位論文審査の要旨

		要 旨
学位申請者	小松 翠 【比較社会文化学専攻 平成21年度生】	<p>小松翠氏の研究は、多文化化する日本社会における留学生交流を概観しつつ、中国人留学生の友人関係期待と体験の否定的認識との関連を質的、量的に検討し、さらに友人形成に向けた教育的介入を質的に検討したものである。公開発表では、各章の要旨を簡単に論じ本研究で得られた知見を整理し、中国人留学生の友人形成や交流に関する不満の現状を期待と否定的認識に焦点を当て質的調査と量的調査から解明した。さらに、友人形成に向けた教育的介入の結果、多文化交流合宿で生じた自発的コミュニティの存在と仲介役としての日本人学生の存在意義を明らかにし、総合的考察、今後の課題について言及した。</p> <p>審査は左記の5名の審査委員により、6月からメール審査をはさみ3回実施されたが、7月27日に行われた公開発表会では、博士論文に関してプレゼンテーションが実施され、その後、質疑応答が行われた。プレゼンテーションは明晰かつわかりやすい発表であったが、一般参加者からは、「中国人留学生を対象とした理由や友人形成・不形成の4分類の根拠はどのようなものか」「多文化交流合宿の1回目参加者と2回目参加者の違いは何か」、「合宿に参加しない人たちをどのように大学として関わっていくか」等の質問があり、真摯な態度で的確に応答した。</p> <p>また、その後、行われた最終審査委員会では、審査員一様に研究課題に即した明晰かつ総合的な分析がなされており、中国人留学生の交流不全と教育的介入の関連をミクロレベル、メゾレベル、マクロレベルの観点から分析した独創性の高い論文であると評された。今後の発展的課題として、大学の教育的介入から外れた留学生への対応、多文化交流合宿の仲介役となったりリピーターの育成、新規プログラムの開発、文化的背景に異なる留学生を対象とした研究の可能性などが指摘された。</p> <p>最終試験では、論文内容、および周辺領域の基礎知識について適切な回答を得られたため、最終試験を合格と判定した。また、本研究は独創的かつ有意義な研究で、異文化間教育および留学生の心理教育支援に貢献しうるものとして高く評価され、博士（人文科学、Ph.D. in Intercultural Education）として認定するに十分であると、全員一致で学位授与を決定した。</p>
論文題目	中国人留学生の友人関係期待と体験の否定的認識および友人形成に向けた教育的介入	
審査委員	(主査) 教授 加賀美 常美代	
	教授 宮尾 正樹	
	教授 内藤 俊史	
	教授 森山 新	
	准教授 西川 朋美	
インターネット 公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否（ 可 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 否 ）</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p style="margin-left: 20px;">ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p style="margin-left: 20px;">イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p style="margin-left: 20px;">ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">エ. <input checked="" type="checkbox"/> 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※ 本学学位規則第24条第4項に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	

